



《発行所》

青山同窓会

〒951-8127 新潟市東区下川原町2-635

新潟県立新潟高等学校内

TEL 025-266-5268

FAX 025-266-5268

《編集、発行人》

上村光司

《印刷所》

オリオン印刷機

〒950-0963 新潟市南出来島1-19-1

TEL 025-283-2151

FAX 025-283-3804

ごあいさつ

青山同窓会会長

50回 上村光司



グローバル・スタンダードという名の文化大革命が吹き荒れています。事業や業者の新展開を進めるため、苦心していらっしゃる方々も多いと存じます。それにしても、世の中に利口な人が増えて、斜に構えた物言いが格好いような姿は、どんなものでしょうか。今こそ質実剛健の気風を立て直すべき時だと思ふのです。

さて、つい先ごろ母校創立百周年を祝ったばかりですが、もう百十周年について準備を始めなければならなくなりました。と申しますのは、昨年七月に着手した母校の新築は、来年一月下旬に本校舎が完成し、来年

度から新校舎で授業が行われます。続いて北校舎と特別教室棟を解体して体育棟とプールの建設を進め、再来年、平成十二年九月にそれが出来、十二月グラウンド整備完了、十三年八月弓道場完成となります。そしてその翌年、平成十四年が創立百十周年となります。

東京青山同窓会

講演・新人歓迎会

これまで、創立七十周年に体育館、八十周年に青山会館、九十周年に新体育館と、節目ごとに後輩たちに良い環境をと願って記念事業を重ねて来ました。百周年はグラウンドの照明施設とピアノ整備を予定していたのですが、照明は近隣住民の異議で取りやめ、スポーツ活動振興基金に振り向けました。

百十周年に当たっても、母校発展のために何かすべきところであり、同窓会、PTA、学校当局

飯に綴帳にしても、あらかじめ付帯工事はしておかねばなりません。私としては「新校舎完成および創立百十周年記念事業」として、早急にスタートさせたいと願っています。

そのためには、時節から恐縮ながら、同窓各位から費用の拠出をお願いしなければなりません。先に申したように、同窓会、PTA、学校三者による記念事業実行委員会を、この秋早々に発足させ、来年に募金活動を行いたいのであります。

この件については、今回の年次総会に課題の一つとして提案いたします。何かにつけて同窓各位のご協力、ご負担をいただくこと、重ね重ね恐縮ですが、よろしくお願いいたします。

88回 前田 豊

雨季に入った東京で、この日は朝から快晴となりました。六月十二日、京都大学教授佐藤幸治先輩(64回)の講演「行政改革と日本の将来」と今春母校卒業の新人(106回)の歓迎会を行いました。

会場はいつもと趣をかえて、三浦愛三先輩(62回)の多大な協力をいただき、先輩の経営する一龍屋台村月島店で二次会までお世話になりました。

ご来賓として旧担任の藤田善思、君伸一郎両先生、青山同窓



申し上げました。返礼の辞を新人代表の山本亜希子さん(東京大学)が述べた後、会は懇談会へと移りました。

懇親会では司会を西山浩子先輩(84回)。今席は新人にとっては卒業以来の再会であり、新人同士では時の過ぎゆくを惜しむように歓談し、先輩達に対しては生きのいい潑刺としたところを見せてくれました。

最年長から新人まで六十年の歳の隔りの人間が会してやはり青山同窓生と確認したのは、校歌と応援歌でした。新潟中学校校歌を富所強哉先輩(46回)、高校校歌を菊池隆先輩(74回)のリードで斉唱し、続いて「青山」で締めくくりました。また十一月の総会であいましよう。

司会進行は星野紹英先輩(84回)、斎藤伸雄会長(44回)の挨拶ではじまりました。64回同期の川崎明先輩から講師紹介があり、現在京都大学教授として行政改革委員会の任に就かれていらつしやる佐藤幸治先輩の講演は高尚ではありますが時宜にかなった内容で、また、とてもいい話でした。出席者全員が傾聴しておりました。

次に新人歓迎の辞として、小生が、ご両親友人を大切に同窓会で活用すればこの四年間は困った時にも何かをなす時に有意義に過ごせるでしょうと



新人歓迎会に 参加して

106回 齋藤 史子



私は、最初、学業(?)におわれ、まったく同窓会に参加する気がありませんでした。しかし、友人に前日に誘われて何とか参加しました。学校で宿題をやっていたため、かなり遅刻してしまい、講演会の内容はそれほどよくはわかりませんでした。が、最初からきいていけば、結構、おもしろい話であったように思われました。残念でした。



懇親会の方は、最初のうちは、友人四人だけで話していて、「あんまり同窓会に来た意味なかったかなあ、やはり、自分からOBの方達に話しかけなければいけないかなあ」、などと思っていたのですが、途中から親切なOBの方達が話しかけてきてくださり、大変楽しかったです。今度、同窓会に参加する時は、仲間うちばかりで話さないで、もっと積極的に先輩方に話しかけてみたいと思います。



今年の東京青山同窓会の講演会・新人歓迎会で、印象が強かったのは京都大学教授佐藤幸治先生(64回)の講演「行政改革と日本の将来」だった。行政改革

佐藤先生の講演を聞いて

69回 山田 栄

(校内幹事)

委員会のメンバーでもあり、時宜に合った話には迫力があつたが(同行した卒業学年担当教師の君先生「京大出身」は、「教科書のようにすけどね」と褒めことばになるかどうかかわからないようなことを言っていたが)、それよりも、むずびにかえてと題して朗読された詩が良かった。英国の愛国詩人アサー・ヒュー・クラフの「苦闘を無駄と呼んではならぬ」を、少し恥ずかしそうに読まれた。先生はこの詩を引用することで何を言おうとしたのか。

この詩全部を載せるスペースはここにない。言いたいのは、私も英文科の端くれなので、この詩人の名前を憶えていたのはよかった。それを手がかりに翻訳を探知するのはそう難しいことではなかった。石田幹事長にそのことを頼まれた。講師の佐藤先生ご本人に聞けば何の苦労もなかったのだが。とまれ、講演の時にいた少数の新人諸君にも好評だったし、またじっくりと拝聴したい気持ちがある。こういう「また」は無理な願いか。

佐藤義雄前校長 文部大臣表彰 を受ける



高校、水原高校、新発田商工高校、新潟北高校を歴任されました。その間は一貫して進路指導と生徒指導に取り組み、多くの研究もなさっております。その後、昭和六十一年に教頭に昇任され、小出高校定時制で二年、続いて教育庁高等学校教育課管理主事として四年勤務されました。

平成三年に村松高校の校長を一年お勤めの後、高等学校教育課参事として教育庁にもどられて、特に学校週五日制の導入とその円滑な実施に力を入られました。

そして、柏崎高等学校長を経て、平成八年からは新潟高等学校長に迎えられました。折しも校舍改築が現実のものとして動きだした矢先であり、旧校舍取り壊し、プレハブ移転、新校舎着工、と目まぐるしい動きの中で精力的に仕事をこなしてこられました。

さらに、外部的にも、新潟県高等学校長協会会長として、あるいは新潟県高等学校体育連盟会長として県の高等学校教育の牽引車となって働いておられました。

第三十六代学校長佐藤義雄先生が、去る平成九年十二月一日に平成九年度教育者文部大臣表彰を受けられました。奥様ともども国立劇場での授賞式に臨まれ、その後皇居で天皇陛下に拝謁する榮に浴されました。先生は新潟大学理学部をご卒業、さらに同専攻科を修了された後、直ちに新潟県の高専学校教員としてお勤めになり、小出

昨年十二月二十二日、新潟高校職員による先生の受賞を祝う祝賀会がホテル新潟にて行われました。奥様にもご出席頂きま

した。大変おめでたい会でありましたし、先生の功績を改めて思い知らされたことでした。

先生はこの三月でご退職になり、現在は新発田中央高校の校長として地元私立高校のために長年培ってきた経験と識見を生かして指導にあたっておられます。

先生が、本校の校長としてお受けになられた文部大臣表彰を同窓の皆様と共に、心からお祝いしたいと思えます。

長の文部大臣表彰受賞を祝う



新任の御挨拶

学校長 66回 青木一男



四月に着任以来二ヶ月が経過しました。私は第六十六回(新制十回)卒で、今、高校時代の思い出に浸っています。入学したのは昭和三十一年四月で、前年の火災で校舎が焼失し、仮設校舎での二部授業で高校生活のスタートを切りました。昭和三十一年十二月本館に移転し、一年余を新校舎で生活することができましたが、これも同窓会をはじめPTA、母の会など関係各位の御尽力によるものであり、改めて感謝申し上げます。

現在、プレハブで勤務しており、隣の教室から授業の音が聞こえてきます。当時もそうであり、懐かしい思いです、建設中

の新、新校舎は平成十一年一月に、普通教室棟と管理・特別教室棟が竣工し、二月中旬には移転が可能であるので、その準備を始めました。定年を迎える平成十二年三月まで、一年余を新校舎で勤務できますことは幸いなことと思います。仮設校舎と一年余の新校舎での高校生活、プレハブと一年余の新、新校舎での勤務、何か因縁めいたものを感じます。

四月八日に離任式、新任式、始業式が行われ、離任式では思い出の応援歌「ますらお」の斉唱で離任される先生方をお送り致しました。また、始業式は、「百里流れて信濃川……、松葉かたどる校章の……」と校歌斉唱で始まりました。そこに伝統が受け継がれており感無量です。校長室には「新潟高等学校校歌」の扁額が掛けてあります。創立百周年記念に第六十九回卒業生が寄贈されたもので、渡辺秀英先生がお書きになられたものです。先生には当時厳しい御指導をいただきました。今もって身の引き締まる思いです。

さて、現在、第十六期中央教育審議会では、「心の教育」、「中高一貫教育」、「今後の地方教育行政の在り方」等について審議中であり、教育課程審議会においては、完全学校週五日

制の下で、「生きる力」をほぐくむための教育内容の在り方を検討しています。一方、新潟県教育委員会においては、公立高等学校通学区域検討委員会を設置し、通学区域の拡大、弾力化を図る方向で検討を進めるとともに、整備計画検討会議を設置して、統廃合も含めた高校改革の長期計画を検討しています。来年三月末には中間まとめ等が出されることになっており、高等学校教育は大きな変革期にあります。このような時代にあつて、生徒諸君に必要となるのは「生きる力」であります。即ち、いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行

ごあいさつ



動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また、自らを律しつづつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性を身に付けることが必要だといえます。しかし、旧制中学時代の「質実剛健」、新制高校に移行してからの「自主自律」と「生きる力」は、その精神においては同じものと思えます。本校百有余年の伝統のもとに、生徒諸君は、自主的、積極的に勉学に励むとともに、スポーツを通して、体力気力の充実を図るなど有意義な高校生活を送っています。皆様方の一層の御協力と御支援をお願い致します。

前校長 佐藤 義雄

四年ぶりで、新発田に帰りますと、我が家はかなり老朽化しておりますが、庭の植物は、その年々の季節を満喫していたのでしょうか、今年も赤、白、

紫と様々な色どりが主人を迎えてくれます。一番目に付くのは紫陽花で、およそ百五十ヶくらいの花を付け、その姿は、梅雨どきの王者の風格を示しております。白い花は、気品のある女性に似た南天であり、赤は棘のあるバラで三つ咲いております。このようにして、庭を眺めますと、雨で化粧した植物が人の心をなごませてくれる梅雨ど

きも、またそれなりの風情があるということでしょうか。

私は、これまで村松高校、柏崎高校、新潟高校と三つの学校の校長を勤めさせていただきました。村松高校は、わずか一年間ではありましたが、丁度、創立八十周年の年であり、草創期の校長の教育方針である「本校の主義は、何事も真面目に行う忠実な国民性を養い、躬行を重んずることにある。従順・質朴・勤勉・努力を以って校風の基礎とする。生徒の取扱いは、規律を厳正にし、礼讓を重んじ、しかも温良にして元氣あるように仕向ける。」ということに、強く心を打たれ、この意を体して実践に努め、生徒の発奮を期待したものです。また、村松で産婦人科を開業している同窓会役員の上氏は、大正四年から始まった学力比較検査で、村松中学の生徒が、新潟中学の生徒と一二を競った時があったからでしょうか、国公立大学への合格を目指し、ご自宅の一部を夜の学習の場として提供されたことも、「誠を尽くして志をたて、必ず実行する」という村松高校の「松城精神」の表れだったことを思い出します。

次の柏崎高校で、私に課せられた最大のテーマは、いかにしたら柏崎高校が天下の新潟高校

と肩を並べることができるとか
を熟慮して、実行に移すこと
した。当時は、月二回の学校週
五日制が実施される時でもあ
りましたので、私は他県に負
けない授業実数を確保すること
に焦点を合わせました。折しも、
新潟、長岡、高田の各高校に理
数科が新設されることとなり
おり、新潟高校の動きを注目し
ておりました。入ってきた情報
は、新潟高校は六十五分・二学
期制を導入するというものでし
た。「新潟高校に遅れを取っ
てはならない」この言葉が幸いし
先生方の協力を得て、六十五分
授業に踏み切ることができまし
た。

新潟高校通信制五十周年

記念式典及び祝賀会

平成十年七月五日(日) 挙 行

そして、最後の二年間は、こ
れまでずっと目標にしてきた、
新潟高校での仕事でした。私は
まず、新潟高校の伝統に学ぶこ
とを心に決め、「青山百年史」
を読み、青山の地にこれまで培
われてきた「自主自律」「文武
両道」の精神をどのようにして
生徒の心と身体に芽生えさせる
かにありました。校舎の全面改
築という大事業もあり、不安な
要素もありましたが、先生方と
一体となって、毎時間の授業を
大切にして学力をつけ、青陵祭、
青山祭、冬のスキー教室などの
行事をとおして、生徒の人間性
を高める努力を続けました。結

果は、逆境にも強い新潟高校の
こと、平成十年度の大学等への
進学も、これまでにないすばら
しい成果を示してくれました。
やがて、新潟高校の校舎もモ
ダンな姿で誕生することとなり
ます。その近代的な校舎に、一
世紀を超える歴史と伝統を調和
させ、新潟高校で学ぶ者、教え
る人、支援する方々が一体となっ
て創る、新生新潟高校が誕生す
ることを、新発田の地から祈念
いたしております。

これまで、青山同窓会から賜
りました、多くのご支援、ご協
力に改めて感謝いたしますと
もに、青山同窓会と新潟高校の
ますますのご発展をお祈りいた
します。

新潟高校通信制は、昭和二三
年四月に発足以来本年で五十周
年を迎えました。

この間の卒業生数は、昭和三
四年二月卒業の二名を最初とし
て、平成九年三月までに三四四
四名になります。

祝慶の年を迎えるにあたって、
これら同窓諸氏の賛同をえて平
成八年四月に「新潟県立新潟高
等学校通信制創立五十周年記念
事業実行委員会」が設立され、
同実行委員長に田中栄一氏、事
務局長に高橋栄治氏、また顧問
には新潟高校青山同窓会長上村
光司氏があたられました。

同委員会は事務局のほかに行
事部、事業部を設け、学校側と

同窓会側双方が分担協力して記
念事業の推進にあたりました。
平成八年七月、「同事業募金
趣意書」が実行委員長と佐藤義
雄前校長の連名でござれ、以来、
事務局の募金、計画会議、事業
推進のとりまとめ、事業部の記
念誌の発行、記念品の選定、行
事部の記念式典、記念講演、記
念祝賀会等の準備をしてくまし
た。



式典 青木一男
通信制の沿革前半。省略。
発足当時、僅か四科目の実施



式典 青木一男
通信制の沿革後半。省略。
発足当時、僅か四科目の実施



式典 青木一男
通信制の沿革後半。省略。
発足当時、僅か四科目の実施

また、式典出席者は来賓三七
名、(祝賀会三一名)、旧職員
三七名(三九名)、同窓生一八
六名(二百名)、現職二九名
(同)、在校生二十名、計三百
九名(三一九名)でした。
以下に、盛会の模様を当日の
ことばの中から抜粋して載せま
す。
更に、事業部の記念誌は通史、
資料、回顧録、式典当日記録等
でおよそ一八十頁のものが、十
月頃発行になることを付記して
おきます。(文責 倉石義範)

から始まった通信教育は、昭和
三十年に至ってようやく普通課
程全科目の実施と、通信教育に
よる卒業が認められ、本校にお
いては、昭和三一年から全科目
を実施し、特別教育活動も順調
に行なわれて、通信教育も独立
した一つの課程として完成し、
最低四年で卒業できることにな
りました。

そして、昭和三四年二月、本
校通信制教育部に初めて二名の
卒業生が誕生し、本校体育館で
の全日制第十一回、通信教育部
第一回卒業式で卒業証書が授与
されたのであります。また、昭
和三六年三月、通信教育部の卒
業生も十名に達したことから、
通信教育部の同窓会の発会式が
行われ、新潟高等学校全体の同

窓会である「青山同窓会」の一
支部として「青山同窓会通信教
育部会」が発足したのでありま
す。

この通信教育部も、昭和三六
年、学校教育法の一部改正によ
り通信制となり今日まで、三四
四名が卒業し各界、各分野で
活躍されておられ、本日の創立
五十周年記念式典も、この同窓
会の皆様方が中心となって準備
されてこられたもので感無量の
ものがあろうと拝察いたします。
今日、社会の変化とともに、
転編入生が多くなり、その性格
が変わってきてはおりますが、
今後は多様な学習ニーズに応え
られる学習機関として、独自性
を持った、社会の変化に耐えら
るものに改善していく必要があ

ろうかと思ひます。

御挨拶

新潟県立新潟高等学校通信制
創立五十周年記念実行委員会

委員長 田中栄一

参会者に対するお礼。省略。

卒業生の一人として、かえりみますと、今から五十年前、当通信制が、新潟高校「通信教育部」として発足した当初、学校生徒それぞれにおいてさまざまな苦勞があったことは、今でも数多くのエピソードとともに語り継がれているところであります。私自身も、少ない人手の中、全日制に劣らぬ教育を、と手作りの教材を用意されたり、各地区学習会の設置やその指導にと奔走される教職員スタッフのお姿やあたたかい励ましのおことばなど今もありがたく鮮明に思い出すことができます。

また、「通信教育」だけでは高校卒業資格が取れないという制度的に不備な状態も、しばらく続いたため、折角張り切って入学してきた学友の多くが、定時制や大検、その他に去つていく、という残念なこともありました。

至りましたことは、まさに感無量といつてよく、よろこばしいきわみであります。

おそらく、この通信制を母校とし、そこをいわば「学ぶこと」の原点とし、きびしい社会生活にあつても「心の拠りどころ」としてまいりました三千五百名の卒業生一同においても、よろこびの思いは一しおのものがあろうかと推量いたしております。

それにしてしましても、こうしたよろこびとともに、本日の盛儀を見るにつけ、今日まで、その母校の充実・発展にご尽力くださいました、歴代の校長、主事、教頭の諸先生をはじめとする教職員の方々の、並み並みでないご苦心とご努力に対し、深い敬意を表し、常日頃のご懇篤なるご指導と併せて改めて心からの感謝を申し上げるものであります。と同時に、この通信制の存在意義等をご理解ください、あたたかいご支援、ご協力を賜つてまいりました、新潟県教育委員会、同教育庁をはじめとする関係各機関各位の皆様にご改めて厚く御礼申し上げますとともに、今後とも一層のお力添えをお願い申し上げます。

私ども実行委員会も、こうした感謝の念を込めつつ、本記念行事の成功をねがって、学校教職員の方々及び青山同窓会のご

指導、ご協力をいただきながら、取り組みをさせていただいてまいりました。

結びのことば。省略。

お祝いのことば

生徒代表

生徒会長 小川朋実

始めのことば。省略。

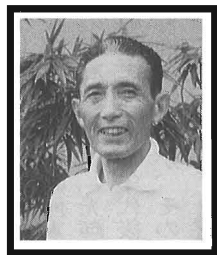
それにしても、この佳き節目に、偶然とはいえ在学できましたことは、何という幸運なことでしょう。私も一人一人にとつて後々のよき思い出になるに違いないと感じられます。

私どもは、実は日頃この新潟高等学校通信制が五十年という長い歴史を持ち、多数の卒業生を送り出してきたことを、それほど強く意識しているわけではありませぬ。しかし、五十年という一つの節目の時期に巡り会つた今、しみじみと心の奥深く、幾多の変遷を経た歴史ある高校に学ぶことのできる幸せを思い、また私どもの諸先輩が社会的に有為の人材として活躍なさっていることを、心強く感じています。

一方この喜ばしい節目は、私ども生徒の現在の状況について、私どもの心を深く反省に導く機会でもあります。私ども通信制に学ぶ生徒を含め、今日の高校生は、世間から批判的な目で見

られる傾向が増してきています。私自身の日常を省みても、学習面、生徒会活動など学校生活全般に、自己の潜在的な能力を発揮し尽くしているとは言い難い状況がありますし、どうかすると伝統の重みにたじろぎ、先輩の方々に遠く及ばない自分の姿を強く意識せざるを得ません。本日この式典を機に、私どもは心を新たに、質実剛健と自主自律の本校の校風を受け継ぎ、

弔辞



本間敏雄兄

中学一年の時から約七十年間友人として君と切磋琢磨し合えたことは、私にとって最大のよろこびでした。君も同感のことと思ひます。これはひとえに、旧制新潟高校時代に共通の偉大な恩師池田廉二先生を持ち得たことに依ります。池田先生を、君は、大学二年の秋、会誌「破帽」に「人間池田先生、霊的池田先生、瞬間の現実の池田先生、永遠の精神の池田先生」と筆に書いていますね。又、昭和四十三

に感銘して会を結成し、廉頗会と名付け、互いの切磋琢磨をその目的としたのでした。そして君は更に筆をつづけて、「私は今、沁々と池田先生の有難さを思うと同時にこれからの人生において、その精神を生かし自らの道を歩んで行かねばならないと心に期しているのである。」(昭和四十二年四月記)

自己の人格の向上と学業の錬磨に、最善の努力を惜しまないつもりです。明日の新潟高等学校通信制を築き上げるのは自分たちであることを認識しつつ、一人一人が新潟高等学校通信制の生徒としての自覚を持って、建設的でも充実した学校生活を送ることを心掛けたいと思います。

結びのことば。省略。

友人代表

41回 萱野四郎

年九月の会誌には、君は次の様に書いています。

「私は先生の逝去(昭三九・七八)された翌年の早春津のお宅を再び訪れて、先生の霊前に額づいた。その時昭和九年以来先生から数示されたお言葉の数々が思い出された。そしてそれは、海軍教授として海軍兵学校生徒を教えた時に、高等学校で青年男女を教えた時に、有形無形に生かされた。それは、愛の精神に貫かれていた。軍人として一生を貫かれた先生の心の底に流れていたもの、それは愛の精神であると私は思っている。それがまた、私を今日まで支えてくれた精神であった。」かくして君も私も、約三〇名に及ぶ同志会員が個々に池田先生の御人格

に感銘して会を結成し、廉頗会と名付け、互いの切磋琢磨をその目的としたのでした。そして君は更に筆をつづけて、「私は今、沁々と池田先生の有難さを思うと同時にこれからの人生において、その精神を生かし自らの道を歩んで行かねばならないと心に期しているのである。」(昭和四十二年四月記)

この文章の時から約三十年間君は文章の決意通り着実に、誠実に生きて来られた。生き残った友として、その誠実な生き方で私達を勇気づけてくれたことを心から感謝申し上げます。君は今日の涯をめざして旅立ちました。私にとっては、胸の中にポツカリと大きな空洞が出来ました。何とも表現出来ぬ悲しさであり淋しさであります。最後に拙い歌を捧げて君への想いをつづり別れの言葉をおわります。

師ありてまた友ありて吾ありし
三とせの日々に心たぎちし
尊とき師信する友ありまなびやの
ひと目ひと日はよろこびなりし
ガッチリとぬくもり吾につたは
り来
君の握手の力のありし
七十年切磋琢磨し合ひたる
親しき君よ 別れねばならぬ
終世の友ぞとかなみにちかひたる
君今逝けり 涙止め得ず

悲しみはいよよ深まり重きかな
言葉かわし得ぬ 君としあれば

平成十年六月十二日

友人代表
旧制新潟高校 廉頗会
菅野四郎

旧校歌歌詞と同窓会と

46回 富所強哉

昨年十一月、六十一回の小林元雄氏から母校の校歌応援歌のカセットテープが届いた。同窓会に出席して校歌を歌おうと東京青山同窓会の「東京会報」で述べた拙稿「玲瓏と百里と」を見ての同じ六十一回の熊谷隆幸氏の御厚意とのことで有り難いことであった。

同窓会の母校教師の皆さんが創立百周年を期して作られた手元のテープと同じものでないかと聞き比べていて、四番末尾の歌詞が在学時と違っていていることに気付いた。テープで「光輝に充てる歴史こそ青陵健児の誇なれ」と歌われている箇所は原作では「光輝を変えぬ歴史もて青陵健児ここにあり」だったのである。

このテープでは怒濤逆巻く日本海（にほんかい）をニッポンカイ（不思議にも古い楽譜でニッポンカイと振り仮名のあるものがある）と歌っているなど何箇所かに違和感を覚えたのだが、何回も聞きながら迂闊にもこのことには気付かなかった

正式に変更になっているものであればその事情ははっきりしているのだからうかと、青山百年史の編集に尽瘁なされ編集後記を書かれた高橋伸二先生（現中条高校）に失礼を顧み

ずお手紙でお伺いした。

それにはひよっとして百年史に記載の前記承認を伝える県学務課長文書にこの「光輝云々」についても記されていたのが、編纂の都合で割愛されたこともあり得るのだからうかという期待もあったのであるが、先生からは承認の条件は「覇者・白砂」の二点だけでこの点は言及されてなく、また編集に当たって点検された多くの資料にもこのことに触れたものを目にしなかつた、との明快なご返事を頂きました。き全く手掛りがなくなってしまう。

それにしても作者の意図を無視しての歌詞の変更は極めて遺憾なことである。前記事情による「覇者」の変更が当時の社会情勢などから止むを得ないことだったとしても、この「光輝」の部分には変更の必要性は全くなかつたと思う。一体誰がどのような意図で変更したのか、憤りすら覚える。

私見で蛇足に類するが、今の「誇りなれ」には過去の栄光への安住が感じられるのに対し、原作の「ここにあり」にはあらゆる事態に対峙せんとする少年の毅然たる情熱が見えるように思う。これこそ青陵健児の姿と陶酔の意を表したら、浅学の老生の往時に対する固執との誇り

を受けるであらうか。歌に過ぎずほとんど歌うことがなく、同窓会でも歌うのは一番と五番、時には一番だけという状況であるだけでなく、原作の「ここにあり」と歌った者が同窓生全員の中の極めて一部だけになって今となっては、このことはどうでも良いようなことでもあろうが、青春の頁である校歌に疑問を持ったまま棺を覆われるに至るのも何とも心許なく、その辺の事情を知りたいの念は止めることができない。

終戦頃までに卒業の何人かの方々の御意見から、「光輝」の部分の変更が昭和十年代後半らしいと推定はしたが、その時期を確定することはできなかった。この変更の事情を御存知の方があり、教えて頂けることを切望する次第である。

またこの部分の変更されたことについては古い楽譜と今のものを対比すればすぐに分かるにしても、変更のあったことを本稿で初めて知る会員が大多数であると思う。「覇者・白砂」の二点については往時の文書がしっかりと残っているだけでなく、改めて百年史に記録されたわけであるが、この「光輝」について変更の事実のあったことだけでも、学校で何等かの形で正確

に記録に残して頂く必要があることを付記する。最後に言いたいのは、覇道を絶対悪とした戦時政治の落し子とも言ふべき歌詞を、戦後に原作用に戻す努力がなされなかったのだからである。新潟中学校を愛し発展に尽力下されたにしても、校歌に格段の愛着を持つ理由のない先生方にそれを求めることは無理だったであらうが、同窓先輩の有識者諸氏にそのような動きなかつたのであろうか。戦後の混乱はそれどころでなかつたかも知れないし、これはどこまでも私個人の想像であるが、当時同窓生と母校とが没交渉に近い状態にあり、校歌歌詞の変更などは卒業生の関知する

二人のエベレストサミッター

石黒久君(73回)と古野淳氏と

新潟高校通信制創立五十周年記念式典が、七月五日に開催され、古野淳氏が記念講演されるという。氏と関わりが深い私は、人との出会いというものに深く思い至るのである。私の部屋に三枚のエベレストの写真がかけてある。真中は、一九七二年春、韓国のマナスル登山隊に技術コーチ兼カメラマンとして参加、四月十日に雪崩のため遭難した畏友安久一成君の「エベレストとヌプツェ」。その左は、石黒久君の「エベレスト登頂一九七三年十月二六日石黒久」という署名入りの登頂写真。右は一九九五年五月十一日、北東稜からの初登頂に成功した古野淳氏の勇姿だ。安久君は鵬翔山岳会の会友、

63回 小林光衛

アルピニストとして、カメラマンとして卓抜した技量の持ち主であった。

石黒久君は、新潟高校山岳部の後輩。高校在学中から、その豊かな人間性と優れた資質は、将来の大物ぶりを窺わせるには十分であった。一九六三年夏、山岳部の立山から槍ヶ岳への縦走合宿でリーダー。槍ヶ岳西鎌尾根。バテ気味の一年生から装備を取り、五十キロを越えるザックで先頭に立っていた姿は、三十五年を経て今も鮮やかに脳裏に蘇る。

高校卒業後は日本大学工学部に進学。鵬翔山岳会に入会。穂高岳に、谷川岳に、郷里越後の山々の、岩場に、氷壁に活躍。「山に登りたいから進学した」という日大大学院時代の六九年と七〇年に、三浦雄一郎氏のエベレストスキー遠征隊に参加。三浦氏の、エベレストサウスコル八千米からのスキー滑降をサポート、エベレストとの出会いが始まる。

七二年大学院卒業後、大成建設に入社。七三年秋、エベレスト南西壁登山隊に参加、南西壁からの初登頂は荒天のため成らなかったものの、加藤保男氏とともにヒラリールートから十月二六日に登頂に成功。ポストモンスーンでの初登頂の榮譽を担ったのである。この遠征を終えた後は、大成建設社員として、「社業に精を出す」と私に語り、事実その通りだ。

八四年から二年間、バングラデシユの水力発電所の建設に、八六年からネパール王国のマルシャンギ水力発電所の新設工事に従事。この工事は「カトマンズからポカラに行く道路のポカラ寄り」のところで、マナスル山より流れてくる水を堰き止めて、水力発電所を造る素晴らしい工事です。プロジェクトサイトよりマナスル三山は勿論、ア

ンナプルナ、ダウラギリがよく見え、ポカラから一時間のところ」で「プロジェクトの所長」として「エベレストに登る方が楽に見える」ような工事に、四年間取り組んだのである。

九〇年一月、私に「二月十五日に発電所の落成式を行う。後始末が終わると帰国だ。その前に二人でヒマラヤを眺めながら一杯やりたい」と電話があり、アルパインツアー社の旅に便乗して三月下旬の八日間、初めてのネパールを楽しんだのである。日中は彼の案内で各地を回り、夜は語りあい、酒を酌み交わす。ポカラ・フィッシュテイルロッジからペワ湖越しに見る月光のアンナプルナとマチャプチャレ。プルチャウキへの往路で見た右

楠花の燃えるような巨木。帰途、地元少年に「お前はシェルバか」といわれて苦笑いをしていて彼の顔。「ホテルでのビールは構わないが、一歩でたらセーブして欲しい。地元の中は一日稼いでもビール一本にもならない者も多いのだから」「土産は古着を頼む。地元民には衣類カトマンズ郊外ナガルコットニバナワロッジにて



▲左・古野氏、右・石黒氏

▶左・石黒氏、右・古野氏

社は、当時古野淳氏の勤めておられたアルパインツアー社。成田空港で古野氏と初めての出会い。柔和な笑顔に秘めた、意志の強そうな相好。カトマンズからルクラへ、ルクラからナムチェバザール、ナムチェバザールからタンポチェへ。初めて仰ぎ見るエベレストは涙で霞む。シェ

が「一番」といって、ネパールに山の民に注ぐ彼の温かな眼差しと気配りは忘れ難い。帰国後は本社の国際事業本部で活躍中。九一年十二月、私は当時の勤務先新潟南高校の山仲間とエベレスト街道トレッキング。旅行

処理できないから」と古野氏。旅の途次、石黒君に話が及ぶ。古野氏が日本大学を志したきっかけは石黒君であったとの事。郷里福岡の高校在学中、母校の創立記念日に石黒君が記念講演を行いそれからとか。九三年三月、新潟中央高校で共に勤めた旧友達と「ヒマラヤ展望山岳ハイキング」。同行は古野氏。カトマンズ郊外ハッテバンリゾーで、ヒマルチェリ南稜初登攀の思い出を聞く。控え目に、訥々と。心安らぐ九日間の旅。

九五年、古野氏は「日本大学山岳部創部七〇周年記念行事として、未踏の北東稜からの初登頂を目指した」登山隊に、登攀隊長として参加。この北東稜は未登の尾根として世界中の登山家に注目され、過去八隊の試みを退けてきた屈指の難ルートであり、「日本人には無理だ」と云われ、多くの山岳関係者も、単一大学隊には登れないだろうと予想した」ルートである。二月十九日、ネパールのカトマンズから入山。前半は大雪と悪天候に苦闘を強いられながらも、キャンプをのぼし、五月十日第七キャンプ建設。翌五月十一日、古野登攀隊長と井本隊員。そしてシェ

ルバ四人が初登頂に成功する。「とにかく全力を尽くしてわれわれは登りきった」。日本を出発してから八十日目の快挙であった。この歳の秋に放映されたNHKテレビの特別番組を通じて、アルピニストとしての古野氏に、改めて新鮮な魅力を感じる。一方私は、三月下旬の九日間、新潟県高体連登山部の顧問仲間と、ジョムソンからムクチナートのトレッキング。ツアーリーダーは古野夫人稲村道子さん。達者なネパール語、地元の子供達との楽しそうな語り、メンバーへの細やかな心遣い、健康管理の厳しい姿勢。カトマンズ最後の夜、エベレストで闘っている夫古野氏に寄せた涙は忘れ難い。石黒久君とは旧知の由

九五年九月、エベレストの南北両面からの登頂者・貫田宗男氏、北東稜初登攀者・古野氏、そして稲村道子さんの三人により、世界の峰々の登山と辺境トレッキングなどを企画するコンサルタント会社「ウエック・トレック」が設立された。ウエックとは、World Expedition Consultants の略称である。「中高年層の登山者が増加の一途を辿っていますが、その人たちの多くは、所属山岳会もなく、実年という身体的ハンディもあり、本当の指導者を求めています。そんな人々たちへのプロとしてのアドバイスができ、安全な

山岳ツアーを演出したい」というのが発足当時の古野氏の思い。爾来三年、業績は予想をはるかに越え、多忙を極めている昨今である。

支配人は六三年のアメリカ隊で南東稜からエベレストの頂に立ったバリー・ビショップ氏。エベレストのサミッターは格が違ふ。夕食時、古野氏に注がれる相客達の畏敬の眼差し。食事終了後、古野・ビショップの両氏を中心に夜遅くまで話がはずむ。ロッジで三日目早朝、八頭の象に分乗しての虎狩りは圧巻。六日目、古都ポカラへ。マチャプチャレとアンナプルナ、そしてペワ湖の懐かしい景観。ゆつたりと時は流れてゆく。最終日、カトマンズのホテルで、昭和山岳会の創設六〇周年記念エベレスト登山隊の人達と歓談の機会をつくってもらふ。六十四歳の樽木正保氏の登頂成功を期待してやまない。

今春三月、私は石黒、古野の両氏に誘われネパール八日間の旅。関西空港からカトマンズまで、二人はエベレスト登頂時の思い出話。カトマンズでの二日目、知り合いのレストランで、地元在住の旧知の人達と閑談。夕刻、ランタンの中を見渡せる笹のナガルコットのニバナワロッジへ。残念乍ら霧がかかって展望は次回までお預け。オーナーの高久さん、それに日本人の女性客お二人と夜遅くまで懇談。三日目、石黒君は社業に転進。古野氏と私はインドとの国境に近いチトワ国立公園へ、二泊三日のサファリを楽しむ。宿はタイガートップロッジ。総

仕事とわたし

58回 青木 彰

私は、昨年から新潟県福祉保健部に籍を置いている。約一年が過ぎたが、仕事によく慣れたかと思っている。

福祉保健部の今日の課題は何かと問われれば、まず最初に頭に浮かぶのは高齢化と介護保険のことである。

今、我が国は超高齢社会に向かつて確実に進んでいる。総務庁の「人口推計」によれば、65歳以上の高齢者人口は、平成九年六月に14才以下の年少人口を上回り、平成十年二月には二千万人を超えるなど増加傾向を続けているとしている。この傾向は将来も続き、厚生省の「日本将来推計人口」の中間推計では、平成二七年には、高齢者人口は三千百八十八万人となり、国民の四人に一人が高齢者という本格的な高齢社会が到来するものと予測している。

高齢化の要因は何かと言えば、長寿化と少子化と言われているが、我が国においては、公衆衛生の向上、栄養の改善等により死亡率が低下したため、平均寿命が急速に伸び、これに少子化の進行が加わったことにより、

人口構造が高齢化したものである。ちなみに、平均寿命をみると昭和三〇年には男性63・6才、女性67・7才であったものが、平成八年には、男性77・0才、女性83・5才と男性で13・4才、女性で15・8才伸びている。

それでは本県の状況はどうか。平成九年四月時点の65才以上の高齢者人口は四十七万九千人で、人口に占める割合を示す高齢化率は19・3%である。これは、全国の15・4%を3・9ポイント上回っており、全国より約七年早く高齢化が進んでいると言われている。

このように、これからますます高齢化が進んでいくことになるが、これをどう評価し、どのように考えるべきであろうか。よく言われるのは、これからは働き手二人で、一人の高齢者を支える大変な時代が来るとか、老人ばかり多く活力のない社会になるといった悲観的な意見である。しかし、そう考えるべきであろうか。私はこうした意見には必ずしも同調はできない。

我々日本人は、長い時間をかけて、衛生環境や栄養を改善し、予防医療に努め、医療制度を充実してきた。これは長生きをしたいという願いを実現せんがためのもではなかったのか。そうであれば、ようやくこれから

我々の望んだ社会が来ると考えるべきではないのか。

また、将棋の米長邦雄氏が二三年前のテレビで、これからは「ぐうたらな若者を年寄りが支えていく時代である」というような主旨のことを述べておられたが、これからの高齢者にはそれくらいの元気が必要であり、わが青山同窓の会報を拝見していると、そんなことは当然という風に思えてくる。

しかし、そうは言っても、現実に高齢者が増加してくれば必然的に介護を要する人も増えてくることは間違いない。昨年成立した介護保険制度は、こうした痴呆や寝たきりなどにより介護を必要とする高齢者が急速に増加している中で、核家族化の進展などにより家族の介護機能が大きく変化してきており、今、介護の問題は国民の老後における最大の不安要因となっていることから、国民共同連帯の理念に基づき、社会全体で介護を支える新たなしくみとして創設されたものである。

その介護保険制度であるが、平成十二年四月一日実施とされ、残り準備期間はわずかである。現実の事務処理としては、実施半年前から、介護を要する高齢者一人ひとりについて、要介護度を認定するいわゆる「要介護認定」を開始しなければならぬので、実際には、あと一年半にも満たない期間が残されているに過ぎない。県では、この制度の円滑な導入のために、高齢福祉保健課内に職員11名を配置した介護保険準備室を設置すると共に、出先機関では、福祉センターと保健所が連携をとりつつ、事業主体となる市町村との意思疎通を図りながら部をあげて取り組んでいるところである。もとより、事業主体である市町村においても、専門の担当職員を置いて全力で取り組んでいることは言うまでもない。

社会全体を巻きこんだ新しいしくみをスタートさせるのであるから、課題も多い。一例をあげれば、複数の市町村による共同実施である。小さい町村では介護基盤や人材において不足であることから、できるだけ地域ごとにまとまって共同で実施するよう働きかけているが、ようやく約半数の市町村でまとまってきた。この共同実施は、

介護認定が公平に、効率的に行われるためにも是非進めていきたいと思っている。

そのほか、特に高齢化の進んでいる過疎地等において、必要なサービスが提供できるだけの

ゆる「要介護認定」を開始しなければならぬので、実際には、あと一年半にも満たない期間が残されているに過ぎない。県では、この制度の円滑な導入のために、高齢福祉保健課内に職員11名を配置した介護保険準備室を設置すると共に、出先機関では、福祉センターと保健所が連携をとりつつ、事業主体となる市町村との意思疎通を図りながら部をあげて取り組んでいるところである。もとより、事業主体である市町村においても、専門の担当職員を置いて全力で取り組んでいることは言うまでもない。

社会全体を巻きこんだ新しいしくみをスタートさせるのであるから、課題も多い。一例をあげれば、複数の市町村による共同実施である。小さい町村では介護基盤や人材において不足であることから、できるだけ地域ごとにまとまって共同で実施するよう働きかけているが、ようやく約半数の市町村でまとまってきた。この共同実施は、

介護認定が公平に、効率的に行われるためにも是非進めていきたいと思っている。

そのほか、特に高齢化の進んでいる過疎地等において、必要なサービスが提供できるだけの

人材や施設が確保できるのかという点は、介護保険制度の根幹にかかわる問題である。これからの介護保険の運営を考えると、特別養護老人ホーム等の施設の整備はもとより、在宅による介護のためのホームヘルパー、訪問看護、デイ・サービスなどの充実が急がれている。県でもこの点を考慮し、必要な予算措置をして、市町村の取り組みを期待している。

そのほか、いろいろな課題はあるが、とにかく平成十二年四月に向けて時計の針は確実に回っている。関係者とよく連携しながら全力をあげて取り組んでいきたいと思っっている。

紙面も残り少なくなつたので、若干私ごとと触れさせていただけると、事務職の私が保健医療分野をはじめ担当することになったが、仕事柄大変かわりの多い医師会や歯科医師会に新潟高校出身の先生が多く、青山の同窓生ということで、いろいろな面で助けていただいている。また、県庁内はもとより、政財界にも多くの青山同窓生が活躍しておられ、いろんな場面でお世話になることが多い。これからもよろしく願います。

最後にもう一度高齢化の問題に戻り、自分自身のこととして考えてみると、何よりも、自分

の健康を自分で管理し、「死ぬまで元気」こそ最も望むところであり、そうありたいと願っている。(新潟県福祉保健部長)

新潟市 市民文化会館 整備課

84回 高橋建造

総工費一八〇億円、総床面積二万五千㎡。これがこの秋オープンする新潟市民芸術文化会館の大きさです。

開館記念事業の一つとして多くの市民が参加し、この会館内で製作されるミュージカル「シャボンポーの森で眠る」に出演する吉田鋼太郎さんは、日本を代表するシェイクスピア俳優として各地のホールを巡っています。「ロンドンのバービカンセンターよりすごいんじゃないか。」と驚いています。

主な施設は、二千人収容のアーリーナ型コンサートホール、九百人収容の劇場、三百八十人収容の能楽堂で、このほかに上演可能なリハーサルスタジオや練習室、ギャラリーがあります。

オーバークートの吸音効果で演奏が損なわれないよう、大きなクロークが用意され、上演前



後に食事を楽しんでもらえるようレストランや喫茶も設置してあります。

オープニング事業のラインナップですが、私自身が長く関わってきた演劇に関しては、内容、価格とも観ておいて損のないものばかりと自信を持って言えます。

親しくしてきた友人が助けてくれたことで初の新潟公演が実現する超人気劇団「キャラメル・ボックス」、脚本を読んだことを後悔するほどスリリングな「愛は謎の変奏曲」、ご存知坂東玉三郎の「鶯娘」、そして冒頭紹介したミュージカルなどです。

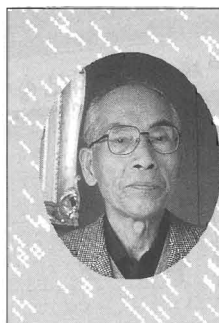
もちろん、コンサートホールでは、キーシンやキローフ歌劇場などこれまで新潟で鑑賞する機会がなかった企画を中心に、全国から注目を集める日本初演

の企画などが盛りだくさんですし、能楽堂では、観世流、宝生流両ご宗家による演能が予定されています。

ぜひご家族、ご友人と一緒に、お楽しみください。それでは、会館でお待ちしております。

八十路のゴルフ エイジ・シニールト達成

43回 小野寺 稔



野球のバットをクラブに持換え、スポーツとしてゴルフに取組み、打ち、歩いて四十年になる。人生八十年の高齢化社会とは申せ、この歳までゴルフが愉しめる幸せを思う。

高令者ゴルファーの願望の一つにエイジ・シニールトになることがある。自分の年令以下のスコアで回ることである。

◇平成七・一〇・二四青山野球クラブ恒例のコンペが、サンライズGCの東・中コースで開催。野球部後輩の飛ばし屋と愉しいゴルフの一日である。プレー中にバックの取り方にヒントを得て、ボールの芯に当たり出し、東は39。中コースは9番。入れパー外しのボギーで39。トータル78。ちなみに私は一九一八年(大・七)五・一生れ。七十七歳六ヶ月。数え七十八。

数え歳であるが同行者の推奨と、ゴルフ場側の心良い認定でエイジ・シニールト達成である。後日の表彰式で認定品と認定プレート(クラブ内に掲示)の贈呈があり、喜びで一杯でした。然し心の片隅に、満年齢でないこと、公式戦でないことで今一つ面映い気持もありました。

◇平成九・九・一五新津GC主催のシニア・レデース杯の公式競技に参加。年令七十九歳五ヶ月。1番は3mのパーパットが入り気合い乗り4連続のパー。5番は50cm外しのボギー。6番パー。7番パー。8番は右崖下に落とすも横に出し納得のボギー。9番よく飛んでパーオン。パーで37。思わざるの出来である。昼食をとりながら秘かにエイジ・シニールトの可能性を検討。

10番のロング、自信を持っての第四打が、グリーン上のボールに当り、カラーまで飛んでボギー。11・12番はパー。然し3ケ目のパーがないまま15番でダ

ボ吹き。一歩逆戻り。16番はパー。残り2ホールが正念場。17番は緊張のうちに第1・2打とも良好。左下りの第3打は奥にオン。70cmに寄せたパーパットを外しボギー。集中力の弱さを思いながら18番ホールへ。このホール、ボギーの80なら数え歳のエイジ・シニールトは諦めよう。と聞き直り、気持ちがあつつきり。

第1打は最高の当たり、第2打は前止り、左下りの150ヤード。閃きで5Wを短く、ピン真直ぐ狙いが成功。同行者より「ピンそば」の声。3mをなんなくのパーで42。最終打で漸く79の達成です。

この直後九・二七の全国紙に元巨人軍川上監督のエイジ・シニールト達成を「打撃の神様ゴルフで快拳」と祝福しておりました。又、難易度は別として距離的に新津が長いことも解り、欲びが倍増されました。

一一・一九の理事会で表彰式があり、表彰状、記念品、ロビーに掲げるプレート等の贈呈がありました。新潟県では公式戦、初のエイジ・シニールト達成とのことで、ゴルフの足跡を残すことが出来ました。

又当日の月例杯で、アウト3番でホール・イン・ワンが達成され、偶然とは申せ重ね重ねの出来事に驚きました。

又当日の月例杯で、アウト3番でホール・イン・ワンが達成され、偶然とは申せ重ね重ねの出来事に驚きました。

又当日の月例杯で、アウト3番でホール・イン・ワンが達成され、偶然とは申せ重ね重ねの出来事に驚きました。

又当日の月例杯で、アウト3番でホール・イン・ワンが達成され、偶然とは申せ重ね重ねの出来事に驚きました。

夏戸城扇おけき

55回 吉原賢二

一、夏戸城と私

新潟市から車で四、五〇分もドライブすれば、寺泊町のアメ横こと、みやげもの店街に着く。新鮮な魚が買えるので越佐觀光の目玉のひとつになっている。

ここからさらに車で五、六分、内陸に入った兵陵地に中世の山城群があり、その中心が夏戸城趾なのだが、知っている人は多くない。夏戸城は越後守護上杉家（一族は関東管領を出す家系）の親衛隊長クラスの重臣である志駄氏が建てた城で、中越の要衝のひとつであったらしい。

夏戸城は一五世紀から一七世紀まで約二百年間この地方に存在し、一五九八年の上杉家会津移封のときに廃城となったものと考えられている。川中島合戦で討死した若い城主の話も地元夏戸地区には残っている。小さいながら、城下町のような名前も残っており、ここに入ると中世の歴史が現に生きているような錯覚にとらえられるのである。

ある。

私も古希に近く、近頃は母親のことを時として思い出す。母は子どもたちの教育のために新潟市に住んだ。私が旧制新潟中学の最後のクラスに属することができたのはそのおかげである。戦後の困難な時期に、姉も、妹も結核で死に、私は結核に感染しながら立ち直って旧制新潟高校、東北大学を卒業した。夏戸城にかかわっているのは、親孝行のつもりであると、私はほかのひとつとに言っている。

二、夏戸城を訪ねる

そんなに昔ではないはずだが、むかしは十年ひと昔といったことも、今はその倍くらいのスピードで飛び去る、ふるさとおこしが叫ばれたことがあって、竹下元首相がふるさとのためにと一億円を市町村に配ったことがあった。またその後一村一品運動というのがあった。しかし本当に成功したところは少ないのではないかと思う。私はいま、仙台で暮らし、新潟を訪ねることは頻繁にはできないのだがふるさととのことは気になる。

平成元（一九八九）年に新潟大学で集中講義をおこなったおり、夏戸城に立ち寄り、寺泊町の広田教育長ほかに案内していただいて、夏戸城趾に入ったが、入って見ればかなり大規模な遺跡に一驚した。昔の防御施設である空堀とか、畝型阻障とかいうのが残っていて、それと指摘できる。廃城のとき、よよい、かぶとを埋めたとされる四ツ塚も本丸跡にある。戦国時代の武将は生き残りのために大変な努力をしており、その息遣いまで聞えてくるようである。越後も南北朝や戦国の世は大へんだった。長尾馬景や上杉謙信は戦国の頃の武将だが、それに仕えた夏戸城志駄春義らの活躍のあとがしのばれるのであった。

三、商工会が動く

私は城あとに感銘を受け、これがふるさと起こしにつながればよいと思った。地元には郷土史家の鳴海忠夫さん、水戸公四郎さん（公民館長）などの方々が夏戸城と志駄氏のことを研究していた。連絡をとっているうちに、寺泊町商工会の方々もこれに関心をもっていることを知った。

平成三（一九九一）年になって、寺泊町商工会の肝入りで、ふるさとウォッチハイキングと

いう行事があった。夏戸城を出て、付近ゆかりの地にハイキングする健康的なまよおしであった。数十名のひとが参加し、読売新聞長岡支局の女性記者も取材にやって来た。夏戸城本丸跡に立ったときは感慨があった。あとで大雨にたたられ、参加者はびしょ濡れとなった。それでも成功した行事であった。



は日本全国まずこだけではあるまいか。決して武骨なものもなく、女性が踊ればいかにも優雅におどりこなすのである。このイベントは国や県の補助事業となり、大へん盛大におこなわれ、踊りの参加者と観客を含め、夏戸はじまって以来の七、八百という人数であった。商工会の武石宣夫氏らが企画に腕をふるった。

翌日には志田姓を名のる志田氏総会があった。私はこの志田氏総会で、最後の夏戸城主志駄義秀（一五六〇—一六三二）の生涯について語った。大へん立派な人物で、のちに上杉藩政務奉行（家老）になった。この人は史上有名な直江兼続の義理の甥にあたり、関ヶ原合戦後の上杉家の困難を背負い通した人である。

四、夏戸城志田氏ゆかりの会結成

この志田氏総会がきっかけで、平成六（一九九四）年に夏戸城志田氏ゆかりの会ができて、志田（正式には志駄だが、ふつうはこのように書く）氏ゆかりの人々がたどって来た歴史を研究することにになり、私は推されて会長（実際は顧問のようなもの）と私自身は解している）となった。

歴史研究は本来の新しい仕事である。金はなくても、多少のひまがあればできる。しかし、こういう会があるとないとは大違いである。第一ひとが集まれる。教育委員会に対して圧力団体というほどではないにしても結構助言や協力関係が成り立つ。

今年（一九九八年）は夏戸城がなくなつて四百年になるので、六月二十一日にこれを記念する行事を夏戸城志田氏ゆかりの会が主催した。前のときのような武者行列はおこなわなかったが、講演会と踊り、太鼓を組合わせた行事になった。小規模にやるつもりだったが、それでも百人をこえる人が集った。とくに扇おけきや、地元の太鼓はすばらしい迫力であった。扇おどりの方は無形文化財に推薦しようというところになった。多くの方々に参加してよかったという感想をもらしておられる。

上杉家が越後を去つて以来、新潟では土魂が衰え、スケールが小さくなってしまったとの慨嘆（なつかしい言葉だ！）がある。祖先顕彰の行事でむかしを思い出すのは、懐古のためだけではない。私はふるさとのこれからの発展に目をとめるのが一層大事と思っている。

教育実習を終えて

103回 鈴木晶子

六月一日、緊張と不安を抱きつつ、母校での教育実習は始まりました。私たちが学んだ校舎の大部分はすでになく、代わりに建てられたプレハブ校舎での実習です。もともと、久しぶりに会った友人ときゃあきゃあ言ったり、実習生同士で話をしたりしているうちに、初めに持っていた不安はどこかへ飛んでいってしまったのですが、プレハブ校舎では右も左も分

からず、初めは校舎見取り図を片手に教室移動をしていました。また、六十五分授業というところにも少し戸惑い、同時に母校の変化というものを実感させられました。

教育実習に行つて一番に感じたことは、先生方は、毎日の授業のために生徒には想像もつかないくらい努力されているのだということ。膨大な知識とそれを踏まえた上での要点を押し

さえた分かりやすい説明。何気なく書いているようで、細かな点まで気を配っている板書、等等。生徒だった頃には全く気づかなかったことを、改めて知ることになりました。

そのような先生方の姿を見て、私たちが必死に努力をするのですが、付け焼き刃の知識と泥縄式の準備では説明不足で生徒に理解してもらえなかったり、授業をやっている自分でも訳が分からなくなったり、果ては生徒に「熱意だけは伝わってきます」と言われてしまったりと、情けない思いをしました。そして、それではいけないと思い、実習

田中正人さん(69回)の『路地裏の人権』について

とかく生真面目な、くそ面白いでもない説教調になりやすい題材だが、そこは新聞記者らしく、徹底して読みやすく、分かりやすく書かれており、いつの間にか読み終えてしまう感じだ。

しかし、そんな中で①障害を異質として排除する慣習は、言葉にも表れて風土に染み込み、悪しき「からかいの文化」となっている②あなたが差別していないくても、差別されている現実③被差別を考える「癖」がついているかどうかまた大切④という指摘はズシリと重く、思わず背筋を伸ばさざるを得ない。一読を勧めたい。

生同士で互いの授業を批評しあったり、議論しあったりしてはみましたが、問題点を先生に指摘され、それに対する議論が先生へ質問することによって収まるというのを見るにつけ、先生方の指導的的確さや知識の豊富さを痛感させられました。

このように書いてみると、毎日授業のことで手いっぱい、準備に汲々としていたように思えるかもしれません。しかし、実際は準備をしつつ、実習生同士で世間話や思い出を話して笑いあうといった和気あいあいの雰囲気、青陵祭の準備に盛り上がる様子を見て高校生の時のことを懐かしく思いだしたり、さらには先生方と飲みに行ったりして、非常に楽しい教育実習でした。そして、これらのことの中から、多くのことを学び、刺激を受けることができました。実習期間中は毎日充実しており、瞬間の二週間でした。

田中正人さん(69回)の『路地裏の人権』について

69回 塩沢拓夫



一九六一(昭和三十六)年卒、第六十九期の田中正人さん(読売新聞解説部次長)が本を出した。『路地裏の人権―暮らしの中に人間らしさを求めて―』(明石書店、一六八〇円)である。

日常生活で頻発する不愉快な出来事から、深刻ないじめ、高年齢者差別、障害者差別、性差別、部落差別まで、人権担当の新聞記者として、いや、一人の生活者として出会ったさまざまな差別について、豊富な実例を具体的に挙げながら、問題点を指摘し「人権とは?と自然に考える発想を」と呼びかける内容である。

最後に言及してしまいましたが、私たち実習生を快く受け入れて下さり、指導して下さいました先生方には、感謝の気持ちでいっぱい。すばらしい、貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございます。この経験を、これから役立てていこうと思えます。

青春よ蘇れ

五十九期同期会



この恒例の同期会に出席してくださる事を祈念します。今日は大いに高校時代に思いを馳せ、青春の気を楽しんでください。

○幹事長挨拶 伊佐 修氏
五・六年振りの方、中には十年振りでお会い出来た方もおられ大変嬉しく思います。

一つは、先のことをいこうと鬼が笑うといいますが、平成十三年は、われら五十九期生が、母校を卒業して五十年を数える年丁度母校もこの年には、新校舎も完成します。そこで大勢の方が参加できるように呼び掛け、大規模な心に残る、同期会を計画しますので、よろしくお願ひします。

二つ目は、五十九期同期会では、二つのクラブが結成されています。囲碁クラブとゴルフクラブです。それぞれの代表の方から説明をしていただきます。

二月十一日建国記念日、午後六時から、花園町サンルートホテルにて、第五十九期同期会開催、参加申し込み三十九名中、やば用で欠席三名、三十六名の出席、昨年に比し三名の増。

○司会 市川鐵夫氏
開会宣言に続いて、昨年、高橋忠雄氏・田辺文雄氏が逝去されたことが報告される。

○開会挨拶 関根彰円氏
訃報が聞かされる年令となり、寂しさも一入です。若い頃が懐かしく感じられるこの頃です。お互い、健康に留意し、元気で

○囲碁クラブ会長 佐藤 進氏
昨年七月の青山同窓会総会の後、二次会の席で、話が出、三人で発足しました。年三回位の大会開催を予定します。上手

下手は度外視した、和気あいあいの集まりですから、大勢の参加を待っています。

今日の大会は、白井三夫氏が五戦五勝で優勝されました。

○ゴルフクラブ会長 飯塚実氏
このクラブは下手の横好き連の集まり。日頃運動不足に悩んでいるということから、昨年、歩け、歩けということ有る有志八名で結成、来年は五月の日曜に開催を予定しており、皆さん多数の参加を期待しております。

○黙禱 司会
以上の挨拶、紹介のあった後ここで、亡くなられたお二人の冥福を祈って黙禱を捧げる。

最近聞かなかつた、同期生の死去について、今回の同期会案内から、高橋忠雄氏・田辺文雄氏のお二人のご逝去の報がありまことに哀しいことです。お二人とも癌と戦われておつたそうです。また、ほかに体調を崩された本日の会に欠席の知らせのあった方がおります。お互い健康に留意し、来年の例会には、元気で参加できますよう祈っています。

川上忠男氏が家庭の事情から子どもさんを連れて参加され、小学生ですと紹介された。以上、幹事長の挨拶の終了と同時に、

子どもか孫かと、賑やかな論議となり、非常に和やかな暖かい雰囲気になりました。

○次いで、県サッカーボール協会副会長の大川 健氏から、平成十四年二〇〇二年に開催されるワールドカップ・サッカーボール大会の新潟開催決定の事情と今後の課題の話があり、サッカー談義にしばし湧いた。

○乾杯
宮田兼好氏による。黒崎町の新潟市への合併事情の後、乾杯

○開宴
和気あいあいのうちに、青春時代に返る。近況・家庭・会社のことなど、話の輪はどんどん広がり、子どものこと、子どもを通り越して孫の自慢をする年。談笑・苦笑の連続、懐旧の情などの湧くことしきりであった。

時あたかも長野オリンピックの開催中。スピードスケート五〇〇メートルの清水、モーグルスキートの里谷の金メダル、スキージャンプノーマルヒルの船木の銀メダル等、日本選手の大活躍した目でもあったので、話題は尽きない、充実感に満ちた時間、その過ぎゆくのも忘れてしまうほどに感じられた。

○幹事の趣向
ビンゴゲームをとりいれてくれ、全員童心に返る。賞品の「越の寒梅」を嬉しそうに抱える人、残念がる人、人間模様が映し出された一幕もあり、あっという間に九時。

さわやかな初夏の六月六日、卒業四十五周年を記念して、岩室温泉綿々亭綿屋に集う第六十一回生は総勢七十八名。予想をかなり上回る盛況となる。

十名余のご案内の諸先生のうち、団長さんこと渡辺秀英先生と、碁学の大家大橋禎助先生のお二人には、初代女生徒の美女三名の会員と共に、錦上花を添えて頂くところとなった。

白山神社の境内に移築修復された旧斎藤邸の燕喜館で、抹茶を頂き、完工した市民芸術文化会館を長谷川新潟市長の案内で見学した後、これまた新築工事中の母校新潟高校の校舎の周囲をひとまわり視察して、一路岩室温泉に向かう。

ゆつくりと温泉でくつろぐどころか、早速大橋先生の碁学の個人教授が始まる。全員が浴衣

に着替えての記念写真の撮影の時間となる。ゴルフ組六名の到着が遅れたが、八十名全員揃ってなんとかセーフ。

卒業四十五周年 記念同期会に参加して

61回 小杉秀一

○再開を約して解散。
青春時代を振り返り、懐旧の情にひたる中から、新しい明日に向けての希望・活力が湧く。まさに温故知新、充実した、早春の宵の一刻、意義深い青山第五十九期の会合であった。

(中野文郎記)

一寸ざわめいた雰囲気にとっさにエースが自ら登場。その名はハナヤの照ちゃん。団長先生からの恒例のおみやげの色紙「騰々任天真」の十枚を、遠路から参加の県外勢のみなさんに配給する軽妙洒脱さに、会場の空気が一挙に和む。

江口良助代表幹事の司会進行で、三十二名の物故者に黙禱を捧げ、新旧校歌の斉唱のあと、新潟幹事代表の長谷川義明君の挨拶について、渡辺、大橋両先生の来賓ご挨拶の定番が進み、東京幹事代表の長谷川耕一君の乾杯の発声で開宴となる。

ここで、前座の若林瑞穂君の相川音頭について、岩室甚句、

十日町小唄、佐渡おけさの三曲の新潟県を代表する民謡を謡った小林よしえ先生は、佐渡のご出身で、この三曲の日本一と名人のタイトルを持つ方で、本物の喉を久しぶりに堪能させて頂いた。

「このオットセイのベニス酒、ほんと効くろっかねー」「おれは、越の寒梅しつかり飲んでイコ」そんな会話を小耳に挟みながらビデオとカメラ両天秤に担いでまわる。残念ながら団長さんの挨拶を取り損ねた。次なる失敗は、団長さんから幹事あてに頂いた二枚の色紙を、みなさんにご披露せよとのメッセージを見逃してしまったこと。参加者には漢詩と訓読みのコピーを送ってお詫びした。かえって良かったとほめてくれた仲間もいたので、渡辺先生からもお許しを得て皆さまにそのうちの一枚をご披露させて頂く。

予告
大阪で
会いましょう

今年も
関西青山同窓会
開催

昨秋、初めて大阪で、標記の会が開催され、多数の参加者にも、待っていた会だと好評でした。今年もひきつづいて、左記のように開催される事となりました。

日時 十一月二十日(金)
午後七時～九時

会場 ホテルグランピア大阪
(JR大阪駅ビル内)

会費 一万円(学生五千円)

ご案内は後日関西在住者あてにお送りしますが、転勤など名簿の住所も変動があり、連絡もれもあるかと思えます。同期をはじめ、お知り合いの同窓に、お伝えいただければ幸いです。詳しくは同窓会事務局までお問い合わせ下さい。



わが六十一回生をこよなく愛で慈しみ、加えて最も長く教壇

70回東京同期会 開催の報告



六月二〇(且土)、「アルカディア市ヶ谷」において、70回東京同期会(昭和三十七年卒業)が開かれた。70回東京同期会は、新潟で開催される70回同期会の裏番組ともいえるものであるが、東京を中心とした関東地方在住の同期生を対象として、五年に一回開催されており、今回が四回目ということになる。今回も新潟から宮地正樹先生・関根彰圓先生という二人の恩師をお招きしたが、それに加えて新潟在住の藤誠・笠原大仙・斎藤忠正・

65期生(昭和32年3月卒業) 還暦同期会のご案内

60年間の思い出と、行手はるけき人生を恩師クラス担任もお迎えし、ゆっくりと語り合う還暦同期会を、下記の日程で計画いたしました。多数の同期生のご参加を期待しています。(65期幹事会)
とき：平成10年10月31日(土)～11月1日(日) (1泊2日)
ところ：越後湯沢「ホテル双葉」
詳しくは、7月17日(金)の青山総会二次会時に、ご案内いたします。

小林紀昭ら四名の仲間の飛び入りがあり、出席者は三〇名であった。日時の設定が良くなかったせいか、今回は出席者が少ないように感じられた。しかし、旨い料理と差し入れの銘酒「越乃寒梅」などを味わいながら、なごやかに旧交を温めた。齢(よわい)54・5歳ともなると、色々な意味で社会的には、むしろ少し立場にあり、厳しい現実に向き合っている状況もあると思われる。しかし、当然のことではあるが、会話の内容は実にフランクで楽しいものであった。ほぼ全員参加、それに数名の中途出席者も加わった。二次会は、飯田橋のホテル「グランドパレス」二三階の「クラウンラウンジ」で夕日にかがやく暮れなずむ東京の街を眺めながら、ワインなど傾け益々和気あいあいの会話が弾んだ。なにしろ皆さん元気がよろしい。お互い別れがたく感じ、おそろしいことではあるが、歳をも顧みず三次会に突入ということになった。三次会は、八人出席で、千鳥ヶ淵の「フェヤーモンホテル」の落ち着いたバーで、バーテンの丁寧な注ぐ絶品のビールで喉を潤した。次回は、五年後とはいわず、もっと早く同期会を開こうなどと話し合う。次回は皆元気で再会することを誓い十二時頃解散と相成った。憂うつな梅雨の季節ではあったが、当日はからりと晴れ上がり暑いくらいの天候であった。二人の恩師の人柄の故であろうか。何時ものことであるが、同期会というものの良さがしみじみと感じられる一時であった。(文責 金子正史)

湯の香に包まれて三十五周年 — 湯沢で71回同期会 —

71回 中村栄一



湯沢駅の改札口を抜けて右手のゆるい坂道を五分程下ると改装の香りも新しい旅館に着いた。六月十三日の夕刻である。一人二人と顔が増えてきた。懐かしさをこめた挨拶があちこちで交わされる。五年毎に繰り返される光景とはいえ、何とも言えぬ味がある。一年間をかけて準備に当たった幹事一同にとっても充実した思いを感じる時でもある。昭和三十八年卒業、第七十回生同期会、通称「さんぽち会」は本年六月十三日午後七時越後湯沢の旅館「花月」で開催された。

参加は六十七人。当初、百人余を予定していたが大幅に下回る結果となった。しかし、各地から参集した諸氏の元気さは百人分を超える迫力で、遠藤久雄、瀧澤強一両先生を来賓に迎え、会は盛り上がり、宿は熱気に溢れたものである。全員の記念写真撮影、山内幹夫代表幹事の開会挨拶、八人の物故者への黙禱の後、宴は中野久君による軽妙な司会の下、夜更けまで続いた。卒業後三十五年を経ても青春のわずか三年間を「糧」にこれだけの顔が揃い交流が続くことはなんと素晴らしいことか。「青山」の妙味である。五年後は還暦直前の齢まわりとなる。ほぼ全員が社会人の大きな節目を迎える筈、変わらぬ笑顔でまみえたいものだ。当日の宴模様は山本俊介君の尽力でビデオ撮影された。愉快なる姿が各種収録とは思いますが、楽しみと怖さが相半ばの方もいるのでは。二次会、三次会へと続いたさんぽち会であった。十三日、併せてゴルフ会も行われた。参加二十三人(女性三人)優勝は相田泰宏君、同コンペで瀧澤先生はなんと三百二十五ヤードの大ドラコンを達成したとのこと。恐れ入りました。新緑のなか、お湯と友情に包まれた七十一回同期会は和やかに終了した。次回は平成十五年六月の予定である。

OB会コンペはOBの山?

青山OB会ゴルフコンペが6月21日、新津カントリークラブで行なわれた。当日は梅雨の最中のわずかな晴れ間を見つけたかのような天気恵まれ、若抜きの老男女33名が集結した。お年のせいか、ゴルフ好きのせいか、1時間以上も前に着いて「幹事はまだか」の一幕も。また、「OB会ってだれが付けたんだ。おかげで…」という声もちらほら。多忙中、第61回卒の長谷川義明新潟市長も参加して下さり、盛り上げに花を添えていただきました。優勝は第60回卒の小林昭二さんで、グロス96ネット70.8という素晴らしいスコア。ベストは82の三浦喜代次さん(第63回卒)。恒例のOB会コンペは、年2回春と秋に行なわれている。幹事は第75回卒の室山氏。遠慮せず、もっとたくさんの人に参加してほしいとのこと。次回は10月29日(木)(紫雲)です。☎025-223-1161

ハイティーン水泳

新中・新高 ②7

60回 平田 大六

47 平田、棄権？

新潟商業高校プールで行われた、第五回国体の新潟県予選会の決勝は、一九五〇年八月二三日、私が高校二年生の時だった。午前の四百メートル自由型の決勝は、佐渡高校のエース武田大司選手との一騎討ちの大接戦を、なんとか逃げきった。レース中の変化を冷静に読まずに、あわててしまえば、相手の仕掛けた作戦にそのまま落ちてしまるところであった。

午後には武田選手とのもう一勝負がある。八百メートル自由型の決勝だ。午前の部を終えて私たちは昼休みに入った。各校毎に、新潟商業高校の教室を一つずつあてがわれて弁当を食べて休むのである。真夏の暑さがりの教室は焼けるように暑い。しかし体を休ませて午後には備えなければならぬ。私は水着をはずして着がえ、黒板の下の教壇にバスタオルを敷いて、ながながと仰向けに寝ころんだ。

同じ二年生(60回)の山本

(青柳)淳夫、治田勇治たちも、こうして眠っている。もともと水泳競技というのは、個人プレーだから球技などのチームプレーとちがって、自分の実力がそのまま結果に表現される。個人のミスでも皆でカバーできる、というものではない。自分は自分、そういう習性のスポーツだから、こうして眠りたければ勝手に眠らせておくのだ。

さっきやった四百メートルの武田選手との接戦が思いだされた。おかげさに云えば、一〇メートルきざみでレースの模様は反芻(はんすう)できる。しかし、もう武田選手でも他の戦法はもっていないだろう。相手は手の内のカードをすべて出し切った、と私はみた。

日々の練習量では私は誰にも負けない。よく、レース前の選手控場で選手同士が情報を交換することがある。その時、ひかえめな数字で話す私の練習量ですら、他校の選手におどろかされたことがある。同じ新潟高校の水泳部の

なかでも私の練習量が多い。一日、一万メートル近いこともあった。だから、練習の時には、立ちあがれないほどの疲労の連続であるが、大会の本番では、いつも苦しさや疲れはなかった。レースの距離のほうに極端に短いのである。これが、「デッドヒートの平田」に仕上げようとしている大黒善弥(50回)監督の特訓である。

「練習量」だけが私の素直な自信だった。いつの間にか眠ってしまった。平穩で深い眠りだった。すると。眠りのしじまの外から、叫び声だ。それは、教室へふみこんできた大黒監督だった。血相を変えている。

平田！起きろ！すぐフンドンせい！八百メートル自由型決勝の開始時刻が変更されてくりあがったのを、大黒監督が忘れていたというのだ。

みんなアップ(註)してる！平田は棄権かと大さわざしてるわい。待ってくれとたのんではきたが、だめならすまん。がんばん。早よ！早よ！

私はいそいで水着を着けた。もう準備体操もアップもできない！

ハイ。私はその時、師にほえみかえしていたような気がする。

ハイ。私はその時、師にほえみかえしていたような気がする。

会 員 短 信

- ◎目下、小唄、詩吟、俳句勉強中。小唄―七月四日東京赤坂「浅田」で本木流小唄会出演。俳句―七月十一、十二日、松島吟行会。(結社名「滯」)
- 〒九八〇―〇八二二 仙台市青葉区春日町八一―五―七
- 〇五 逢坂猛男 (昭和十七年卒)
- 49回 逢坂猛男 (昭和十七年卒)
- ◎お願い。戦後卒業の方々の会報になりました。もう少し考えて、戦前の大先輩方々の消息や、通信欄の記事をのせて頂ければ幸甚。編集方法にご一考を望む。
- 〒九六五―〇〇〇四 会津若松市一箕町八角中村東七十七―十九
- 49回 江間正二郎 (昭和十七年卒)

◎私は従軍中は所在不明となりました。一生を祖国のため捧げようと決意せるもはからずも生還を得て、祖国経済再建と教養豊かに文化を築くお上の命令に、先ずは東京の中小企業の再建に全力投球して、祖国は昭和三十年頃から高度成長し、輝かしい国家の生長を、生還した甲斐を感じました。教育にも中、小大に關してプライベートな努力をしました。

米軍の事実上占領下五十数年の間に祖国の前途は方向をあまりつつあります。後進国の再生は教育にあります。目下病床にあり、高令者に対する同窓会の思いやり不足は、やや不足していると思えます。独特の大和民族の存亡を、そして無限の将来に前進する我が愛する新潟青山の万古変らぬ信江と共に。

〒二八五―〇〇二五 佐倉市鍋木町二七〇番地 佐倉ゆうゆうの里二―三一六号 38回 竹石三男 (昭和六年卒)



「これで終わった。全部終わった。もう楽しいことがなーんにも残っていない。」夕方教室へ戻ってきた女子が叫びました。こういうとき、プレハブ校舎は便利で、生徒の本音が居ながら

母校は今

例年、三年生は六月の総体で運動部員の多くが部活動を終了し、青陵祭では全員が燃え尽きて、後は受験にまっしぐら、ということになります。

この時期の前後は集会が多くて何かと慌ただしいのです。北信越大会出場選手推戴式とか、青陵祭表彰式とか、生徒会後期役員立合演説会とか。体育館を出入りするときに、ふと窓外を見ると、いつのまにか新校舎の覆いが外されています。既に鮮やかに彩色された外壁がまぶし

い。新校舎が現実目の前に出現しました。

ところで、今年七月の定期調査後に三年生だけクラスマッチが加わりました。朝早くから体操着で走り回って、青陵祭並みの盛り上がりを見せていました。ほんの半日、バレーかバスケットでどの組に勝ったとか負けた、とか言うだけの話なのですが。

平成10年度大学入試結果

にして聞けませぬ。なるほど君たちはそういう思いでいたのか。いわば必死な気持ちで遊んでいたんですね。

まあ、そういういなさんな。梅雨が終われば、変化と可能性を予感させる夏が来るじゃないですか。ガリ勉の中にも夢はあるさ、と、ね。

今年度、青木一男校長(66回)が二代目の同窓校長として本校

に赴任されました。(初代は第十九代阿部藤策校長28回) 昨年度から本校におられる坂井行政教頭(70回)も同窓で、校長、教頭二人とも同窓のいわゆるそろい踏み、は史上初なのだそうなんです。

「教頭なんて何でもねンですがね。」と坂井教頭は謙遜されまふ。周りがしつかり補佐しなければ、と思うのですが。(校内幹事 69回 山田 栄)

今春、全日制を卒業し、青山同窓会に入会した新人会員は436名で昨年の441名とほぼ同じです。その進路先は大学等進学者が268名、浪人者162名となりました。その結果進学率が61・5%となり、昨年の59・6%を2%ほど上回りました。ここ三年間をみますと、少しずつですが伸びています。

さて、今春の入試結果の特徴を現役を中心に述べてみます。(国公立大学)

国立大学の現役の合否状況について述べますと、今年の本校の国公立大学入試結果の特徴として、次のことがあげられます。

①東京大学の合格者が多かった

び東京工業大学の現役の合格者が一人もいなかったことは課題として残りました。

②について、合格率は34・6%で平成五年以降から見るとほぼ例年並ですが、この数字を見る限り低迷に歯止めをかけることが出来ませんでした。この厳しい現実にしつかりと目を向け、今後の取り組みを強化していきたいと思っております。

③について、新潟大学を除く主な国公立大学(難関大学と言われている)の合格者数(ただし、新潟大学医学部の数のみ入れる)の総計を平成元年から平成九年までを見ると、範囲は70~95名で平均85・8名となっております。この数から見ると今年度の68名はやや少ないと思われまふ(ただし、生徒数、入試制度の変更などで正確には比較できません)。また、「東大十京都大十新大医」の数では、同様に、範囲が15~23名となっております(平均20・1名)。したがって今年度の23名は多くなっています。

ここに「東工大十橋大」の数を加えると範囲が24~35名(平均29・4名)となります。今年度は26名でした。このことから、最上位層は厚かったが、その次の層が薄かったのではないかと考えられます。これに関して、本年度から理数科が設置されたこ

とが、例年と異なって影響していると考えられます。また、難関大学の合格者について、例年、それらの大学の合格者の総数に新大医学部の合格者数を加えた総数の範囲は70~95名となっております。この数の内訳を見ると、卒業学年の特徴が現れてくると思えられます。その意味では、今年度の最上位層の合格が東大と新大医学部に偏った感があります。

④について、新潟大学の合格率が51・9%と大幅にアップしました。この数字は平成元年の53・1%に次ぐ素晴らしい結果です。このことは、今まで重点的に受験指導に取り組んできた結果が現れたのではないかと思っています。

⑤について、東大十京都大十新大医の数は、同様に、範囲が15~23名となっております(平均20・1名)。したがって今年度の23名は多くなっています。

⑤について、ここ数年全国的に格段に人気上がり、一層難しさを増している中で、医学部に14名という多くの合格者をだしました。前述したように最上位層が集中した感もありますが、これは大変素晴らしいことで後輩に良い刺激と目標を与えてくれたと思っております。

⑥について、私立大学の合格率がアップし、合格者数も増加しました。私立大学が易化したと言われるなかで、早稲田大、慶応大学と言った難関大学は結果を見る限り、やはり難しいと考えなければなりません。

国公立志向が依然として、ある中で私立大学が比較的入りやすくなっていることは事実です。しかし、不合格者も国公立大学と同じ位出している事実を直視し、けして、甘く見るようなこととは絶対しないと言ふ認識をしっかりもって欲しいと考えています。

〈終わりに〉
本年度の入試結果から見ても、本校生は全国のトップクラスの大学に入学できる能力を持つ生徒が集まっており、個々の力が十分発揮出来れば目標に達する可能性のあることを示してくれました。毎年の入試結果の変遷をたどってみると、個人個人の結果が良くなると全体の力を生

| 国公立 | 合格者数 | 私立 | 合格者数 |
|------------|------------|------------|------------|
| 大 104(81) | 大田 27(11) | 早稲田 26(16) | 早稲田 26(16) |
| 海 10(6) | 海 32(18) | 慶応 33(9) | 慶応 33(9) |
| 旭 1(1) | 旭 9(5) | 中央 21(11) | 中央 21(11) |
| 川 1() | 川 35(8) | 法政 13(4) | 法政 13(4) |
| 東 25(21) | 東 25(11) | 日青 6(4) | 日青 6(4) |
| 宮 1(1) | 宮 40(17) | 東東 11(5) | 東東 11(5) |
| 城 1() | 城 2(2) | 獨千 4(1) | 獨千 4(1) |
| 秋 2(1) | 秋 3(1) | 垂学 5(1) | 垂学 5(1) |
| 山 2(1) | 山 4(2) | 北国 I 3(2) | 北国 I 3(2) |
| 茨 1(1) | 茨 5(1) | 駒芝 2(1) | 駒芝 2(1) |
| 次 1() | 次 2() | 実成 3(1) | 実成 3(1) |
| 筑 7(6) | 筑 2(2) | 成創 8() | 成創 8() |
| 宇 1(1) | 宇 1() | 専大 1() | 専大 1() |
| 群 1() | 群 6(3) | 津東 7(3) | 津東 7(3) |
| 埼 4(4) | 埼 4(1) | 東東 9(4) | 東東 9(4) |
| 千 15(11) | 千 3(1) | 東東 8(1) | 東東 8(1) |
| 葉 15(9) | 葉 5(1) | 東東 3(3) | 東東 3(3) |
| 京 1(1) | 京 4(2) | 東東 5(2) | 東東 5(2) |
| 芸 2(2) | 芸 3(2) | 日明 16(5) | 日明 16(5) |
| 外 3(1) | 外 2() | 神同 8(1) | 神同 8(1) |
| 学 2() | 学 2() | 立関 40(15) | 立関 40(15) |
| 工 1(1) | 工 2(2) | の計 103(25) | の計 103(25) |
| 農 2(1) | 農 3(3) | 現役 () | 現役 () |
| 医 2(2) | 医 12(5) | | |
| 通 3(3) | 通 2(1) | | |
| 橋 3(3) | 橋 4() | | |
| 大 12(5) | 大 6(3) | | |
| 科 2(1) | 科 1(1) | | |
| 薬 4() | 薬 1(1) | | |
| 沢 6(3) | 沢 1(1) | | |
| 井 1(1) | 井 2(1) | | |
| 科 1(1) | 科 3(2) | | |
| 州 1(1) | 州 1(1) | | |
| 岡 2(2) | 岡 2(1) | | |
| 屋 2(1) | 屋 2(2) | | |
| 戸 1(1) | 戸 1(1) | | |
| 子 5(3) | 子 2(2) | | |
| 立 4(4) | 立 1(1) | | |
| 技 2(2) | 技 5() | | |
| 立 4(4) | 立 4(4) | | |
| 他 15(4) | 他 15(4) | | |
| 計 274(190) | 計 274(190) | | |

後輩の活躍

み出し、その力が逆に個々に還元されて一人一人にやる気をおこさせて能力を引き上げてくれるという良い意味での集団力学の関係が生じています。この働きがうまく作用したときは全体的に良い結果となって現れてくるようです。集団を動かす力を生み出すのは個人で、毎日の学習活動を通して、自分の大学入試にたいして、如何に前向きな姿勢で取り組むかが鍵になるのではないかと考えています。

今後とも同窓の皆様のご理解をいただきますとともにご協力を御願ひ申しあげます。

(進路指導部長 杵淵謙二郎)

平成10年度全国大会出場者一覧

- フェンシング部
女子団体
神田恵理子、近聖子、市橋佳子、椎谷綾子、大関綾子
女子フルール
近聖子
伊丹理晃
空手道部
男子団体型
上野山敦士、下平浩己、長谷川衛、長谷部勝洋、阿部高宇、利川重成、山崎祐一朗
女子団体型
甲野朱美、高橋美咲、帆刈千春、酒井麻里子、小川美由紀

- 個人
町田直
放送部
ラジオ番組部門
水品慶美、金井晶子
囲碁部
合田泰之、小池仁、内藤亮
将棋同好会
河野雅之、津野宏隆、五井嘉明
明
高見野枝、富所康子
個人
五井嘉明
平成10年度北信越高等学校体育大会出場者一覧
フェンシング部
女子団体
神田恵理子、近聖子、市橋佳子、椎谷綾子、大関綾子
女子フルール
近聖子
伊丹理晃
空手道部
男子団体型
上野山敦士、下平浩己、長谷川衛、長谷部勝洋、阿部高宇、利川重成、山崎祐一朗
女子団体型
甲野朱美、高橋美咲、帆刈千春、酒井麻里子、小川美由紀

- 女子団体組手
甲野朱美、高橋美咲、帆刈千春、酒井麻里子
ボート部
男子ナックルフォア
外山祐一郎、後藤宏行、神田信、宮尾紘史、高口均
女子ダブルスカル
山田千紘、山田真生
ソフトテニス部
個人
法師人憲太、泉井厚志
柔道部
個人 100kg級
保科昌宏
登山部
古寺浩実、籠島真ノ介、池野潤、鳥井純一
水泳部
個人男子 50mフリー
高橋洋平
女子 400mMR
齋藤美穂、佐野真理絵、長井あすか、神林亜衣
400mリレー
齋藤美穂、佐野真理絵、長井あすか、神林亜衣
齋藤美穂、佐野真理絵、長井あすか、神林亜衣
100mバタフライ
齋藤美穂
100mバタフライ
神林亜衣
200mバタフライ
神林亜衣

- 平成10年度新潟高等学校運動部大会成績一覧表
陸上競技部
個人男子 400H
1位 島倉泰博
7位 小林耕士
800M
7位 小林耕士
1600MR
8位 小林征太郎、神田理、小林耕士、島倉泰博
3水泳部
個人男子 50mフリー
6位 高橋洋平
女子 400mメドレーリレー
5位 (齋藤・佐野・長井・神林)
400mリレー
6位 (齋藤・佐野・長井・神林)
100mバタフライ
1位 齋藤美穂
100mバタフライ
2位 神林亜衣
200mバタフライ
3位 神林亜衣
4男子バスケ部
2回戦敗退
5女子バスケ部
2回戦敗退
6男子バレー部
ベスト16
7女子バレー部

- 1回戦敗退
ソフトテニス部
団体
男子ベスト16
女子ベスト32
個人
男子6位
泉井・法師人組
女子3回戦敗退
岡本・後藤組
9卓球部
男子ダブルス2回戦敗退
栗原・渡辺組
10バドミントン部
団体
男子2回戦敗退
女子2回戦敗退
11サッカー部
ベスト32
12ラグビー部
第3位
13柔道部
団体
予選2位
個人 100kg級
2位 保科昌宏
14剣道部
団体
男子ベスト8
女子予選2位
個人
男子ベスト16
細貝辰徳
15レスリング部
(不出場)

- 16登山部
男子
優秀校(3位)
17テニス部
団体
男子3回戦敗退
女子1回戦敗退
個人
シングルス男子
3回戦敗退
高橋寛明、江花陽平
女子
1回戦敗退
八木
ダブルス
3回戦敗退
高橋・江花組
18フェンシング部
団体
男子2位
女子1位
個人男子フルール3位
伊丹理晃
女子フルール1位
近聖子
19ボート部
男子総合3位
女子総合1位
男子ナックルフォア1位
外山・後藤・神田・高口・宮尾
女子ダブルスカル
1位 山田千紘・山田真生組
2位 望月・梅津組
男子シングルスカル